Japanese Unexamined Utility Model Application,

First Publication No. S50-39528

Date of First Publication: 11/13/1975

Int. Cl. Japanese Cl. Internal Serial No.

B 60 K 1/04 80 A 02 7111-36

B 62 D 21/00 80 B 1

Japanese Utility Model Application No. S46-72523

Application Date: August 13, 1971 Publication Dates: S48-29509

April 11, 1973

Title of the Invention: Battery mounting apparatus for an electric vehicle

Inventors: Hideo ABE

Applicant: Toyoda Automatic Machinery

Agent: Hidehiko OKADA

Description

1. Title of the Invention BATTERY MOUNTING APPARATUS FOR AN ELECTRIC VEHICLE

2. Claim

A battery mounting apparatus for an electric vehicle that is structured by: a carrier 4 having one end thereof that tilts pivotably on a chassis frame 2; cross members 5, 14, and 15 that traverse this chassis frame 2;

a suitable plurality of guide pins 22 that are inserted in these cross members 5, 14, and 15; and

a battery case 11 with a bottom that has a flange having through holes bored therein that enable fitting of the guide pins 22, and is able to accommodate simultaneously a plurality of batteries 13 that are mounted on the cross members 5, 14, and 15.

MInt.Cl.2 B 60 K 1/04 B 62 D 21 / 00 ❷日本分類 80 A 02 80 B 1

⑩日本国特許庁

@実用新案出願公告 昭50-39528

実用新案公報

庁内整理番号 7111 — 36

昭和50年(1975)11月13日 40公告

(全4頁)

図電気自動車におけるバツテリ搭載装置

願 昭46-72523 即実

願 昭46(1971)8月13日 ②出

開 昭48-29509 公

43昭48 (1973) 4月11日

阿部英生 四考 者

大府市大府町アラタ80

竹内晋治 同

大府市大府町清蔵4の2

願 人 株式会社豊田自動織機製作所 创出

刈谷市豊田町2の1

⑩代 理 人 弁理士 岡田英彦

匈実用新案登録請求の範囲

シヤシフレーム 2 に一端が傾動可能に枢着され た荷台4と、このシヤシフレーム2に横架された クロスメンバー5,14,15と、このクロスメ ンバー5、14、15に植設された適数本のガイ ドピン22と、このガイドピン22と嵌合可能な 通孔の穿設されたフランジを有し、前記クロスメ ンバー5、14、15上に載置され複数個のバツ テリ13を同時に収納しうる有底状のパツテリケ ース11とより構成してなる電気自動車における バツテリ搭載装置。

考案の詳細な説明

本考案は電気自動車において、多数個のバツテ リを一組みまとめて搭載する装置に関する。

さて、パツテリを多数搭載して、その電気エネ パツテリが放電する寸前において、走行を中止し てその車輛に装備された充電装置或は別の充電機 によりバツテリに電気エネルギーの補充を行なつ た後再び走行するのが普通であるが、バツテリへ の充電時間は約8時間位を必要とし、したがつて その充電間は車輛の使用が出来ず、利用価値の減 縮を心起していた。

そして、上記の欠点を解消するものとして、ほ

2

ぼ完全に放電し終えた車輛搭載のパツテリをその 都度予め充電がなされた別の新しいパツテリと取 替えて電気自動車の駆動源として供する方法が講 じられている。しかしながら、これまでのパツテ 5 り搭載装置は第3図に略示するように、バツテリ 13′を1個づつ収納保持するブラケツト11′ を、後車軸を挟んで前後2個所に大別してシヤシ フレーム2′のクロスメンバ5′に装着し、この ブラケツト11′に対応すべく荷台4′の底板2 10 4に取出口25を切欠形成するとともにその取出 口25の下周縁に補強を施し、前記取出口25に 底板24上面と合致した蓋板26を取外し可能に 装着した構造のものと、また前述と同様にしてシ ヤシフレームにパツテリを装着し、荷台の底板全 15 体を木材等の軽い板で取外し可能にした構造のも のとがあり、前者においては底板24の蓋板26 を取外すのみでバツテリ13′を上部から取替え 得るものの限ぎられた挾い取出口25からバツテ リ13′を1個づつ取出さなければならず、その 20 作業が非常に煩わしいものとなり、しかも荷台4 に溜つた雨水等が荷台4′の底板24と蓋板2 6との間からバツテリ13′上に滴下しバツテリ の異状放電を誘発させ、さらには底板24の一部 に取出口を切欠形成するため、該底板には必然的 25 に補強片を設けなくてはならず、荷台の重量増加 を招来していた。また後者においては荷台から取 外す底板が大きすぎるため、その取扱いが面倒で あるとともに、底板が軽い木材等で形成してある ため、比較的重い荷物を乗載すると該底板が撓ん ルギーにより走行する電気自動車は一般に完全に 30 でしまう等の欠点があり、いずれも満足な手段が 講じられなかつた。また両者ともパツテリ、モー タ、制御器等の電気部品、減速機、デフアレンシ ヤル、アクスル等のシャーシ部品の点検サービス は荷台等が邪魔となつて困難であつた。

> 本考案は上記した欠点に鑑み、パツテリの点検 及び取替作業を極めて簡単かつ容易に行なうこと ができ、しかもシヤシ部品、制御器等の電気部品 の点検、整備を容易化し得る電気自動車における。

3

バツテリ搭載装置を提供することを目的とする。

以下、本考案を具体化した図示の実施例につい て詳述すると、図中 1 は貨物用電気自動車の全体 を示し、2はそのシヤシフレームであつて、上面 には適数個のブラケツト3,3が突設され、この5 ブラケツト3,3上には箱形の荷台4が乗載され ており、該荷台4にはシヤシフレーム2後端のク ロスメンバー5上の両端に突設された支持プラケ ツト 6に相対された支持プレート・7 が垂下固定さ れている。この支持プレート7と支持ブラケツト 6とは支承ピン8により枢着され前記荷台4がシ ヤシフレーム2に対してほぼ90°の範囲で傾動 可能となつている。なお、荷台4は該荷台4とシ ヤシフレーム2との間に設けたトーションパー等 図における時計方向に常に傾動するように附勢さ れている。10は荷台4をシヤシフレーム2に対 し通常の水平状態に保持するための引掛式の係止 金具であつて、荷台4の前端両側に取付けられた 被係止部材と、これに相対されたシヤシフレーム 20 2側の係止部材とから構成されている。

11は前記シヤシフレーム2に、後車軸12を 挾んで前後に 2 分割されて取外し可能に設置され るパツテリケースである。

個(本例は4個の場合を示す)のバツテリ13を 収納する上部開放の箱形からなるパツテリケース であつて、その各側板の上端縁にはフランジ11 aが一体状に延出されており、このフランジ11 aはケースをシヤシフレームに取付ける際、シヤ シフレーム 2 上面と該シヤシフレーム 2 に横架固 定されたクロスメンパー14,15上面にそれぞ れ当接するものである。16~16はフランジ1 た締結ボルトであつて、その上端にはそれぞれへ 形状のスペーサーフ~17が取付けられている。 このスペーサ17~17はケース11内にバツテ リ13を収納する際に該バツテリ13の互いの間 ケース11へ固定できるような形状である。18 ~18は前記フランジ11aに適宜間隔をおいて それぞれ貫設された通孔、19,19は同じくフ ランジ 1 1 a の両端にそれぞれ設けた□形状をし

た係止具である。

20,20は前記クロスメンバー14,15上 に敷設された木材等の緩衝部材であつて、その両 端部には前記フランジ11aの両端に貫設された 通孔18,18に相対された挿通孔21,21が クロスメンバー14,15を貫いて形成され、中 間部には前記挿通孔21,21に相対された通孔 18,18の他の通孔18,18内に挿通される ガイドピン22,22が突設されている。23は 10 通孔 18, 18及び挿通孔 21, 21内に挿通さ れる取付ポルトである。

さて、上記のように構成されたパツテリケース 11にパツテリ13を収納し、かつ該ケース11 をシヤシフレーム 2 に設置する場合について説明 のばね手段9により支承ピン8を中心として第1 15 すると、まず、引掛式の係止金具10を解離する と、荷台4はばね手段9の附勢力でその後端の支 承ピン8を中心として時計方向へ傾動(跳ね上げ **)されてシヤシフレーム2の上面部を開放する。** (第1図仮想線参照)

そして、バツテリケース11内に適数個のバツ テリ13を直列または並列状(図面は並列状を示 す)に載置したのち、各バツテリ13の間隙を所 定量保つようにその境目の両端にスペーサーフ~ 17を設置し、該スペーサ17~17の一端とバ 以下、その詳細を前側のみのパツテリケースを 25 ツテリケース 11のフランジ 11 a とを締結ポル 示した第2図について説明すると、図中11は数 ト16~16により緊締する。ここに各バツテリ 13はパツテリケース11内に確実に収納定置さ れる。

ついで、上記のようにしてバツテリ13を収納 30 したパツテリケース 1 1 を吊具Wによりクレーン 等を介して吊り上げて前記上面部が開放されたシ ヤシフレーム 2 上に載置する。すなわち、吊具W のフツクをバツテリケース11の係止具19.1 9に引掛けて、バツテリケース11全体をクレー 1 a上に適宜間隔をおいてねじ込み式に植設させ 35 ン等により吊り上げながら、シヤシフレーム2の 上方部から該フレーム2とクロスメンバー14. 15とで形成された空間内に降下させ、パツテリ ケース11のフランジ11aに貫設された通孔1 8,18をクロスメンバー14,15のガイドピ 隙を所定量保つとともにバツテリ13をバツテリ 40 ン22,22に嵌挿し、そのピン22,22をガ イドにしてパツテリケース11をクロスメンバー 14,15上の緩衝部材20,20上に当接係止 させる。(第2図参照)このようにして、バツテ リゲース11をシヤシフレーム2に載置した後、

5

ガイドピン22,22と嵌合しないバツテリケー ス11の通孔18,18とこれに合致されたクロ スメンバー 1 4 , 1 5 側の挿通孔 2 1 , 2 1 内に 取付ポルト23をそれぞれ挿通し、ベツテリケー ス11をクロスメンバー14,15に固着する。 5 なおこの固着手段としてはガイドピン22の上端 にネジを刻設し、このピン22にフランジ11a の通穴18を通じた後締付ナツトでガイドピン2 2を締付けてゆく手段であつてもよい。また後車 軸12から後側のシヤシフレーム2に対する後部 のバツテリケース 1 1′についても前述と同様に して搭載固着するものである。

ついで、傾動状態にある荷台4を人力等により 反時計方向へばね手段の弾力を蓄積させながら復 ヤシフレーム 2に固定することにより、該荷台 4 を水平状態に保持し、通常の運搬作業に供するも のである。(第1図実線参照)

さて、自動車1の走行に伴ない別の充電済バツ テリに取替える場合には前述のように荷台4をば 20 ね手段により傾動させた状態において、取付ポル ト23を挿通孔21,21及び通孔18,18か ら抜脱したのち、バツテリケース11全体を吊具 Wを使用して吊り上げシャシフレーム2から取外 し、そしてこのバツテリケース11と同様に形成 25 ならしめる効果を発張する。 されたケース内に予め適数個の充電済バツテリを 収納しておき、このケースを前述と同様の方法に てシヤシフレーム 2 上に搭載するものである。な お、バツテリケース 1 1 からバツテリ1 3 を取外す には締結ボルト16~16をバツテリケース11 30 体図である。 のフランジ11aから螺退することにより行ない 得るものである。

すなわち、本例は適数個(4個)のパツテリー 3を一つのパツテリケース11内に収納し、この バツテリケース 1 1 全体をシヤシフレーム 2 に対 35 6

し、上方部から取外し可能に搭載せしめたもので あり、バツテリの交換時にはバツテリケース11 全体をシヤシフレーム2から吊り上げて取外し、 予めこれと同様にバツテリを収納したケースをそ のままシヤシフレーム 2 に取付け載置するのみで よく、すぐさま自動車の走行に供するものである 以上実施例で具体的に述べたように、本考案は 荷台をシヤシフレームに対し傾動可能に載置し、 該シヤシフレームとクロスメンバーとで形成され 10 た空間部に適数個のバツテリを一組にまとめて収 納したバツテリケースを、前記シヤシフレームの 上方部から取外し可能に搭載せしめたことにより バツテリを交換するに際しては、バツテリを1個 ずつ取外していた従来のものに比し、数個のバツ 帰傾動させ、その先端を係止金具10を介してシ 15 テリをパツテリケース全体とともにシヤシフレー ムの上方部から行ない得るので、その作業がいた つて簡易化できるとともに、作業能率の大幅なる 向上を図ることができる。しかも本考案は荷台の 底板に何らの加工を施さず、単に荷台をシヤシフ レームに対し傾動可能にしたから、目的の項で種 々述べた従来の荷台にかかる欠点はすべて解消さ れるとともに、シヤシフレームの上面部は完全に 開放されるので、パツテリの交換のみならず、シ ヤシ部品、制御器等の電気部品の点検整備も容易

図面の簡単な説明

図は本考案の一実施例を示し、第1図はバツテ リ搭載装置を例示する略体側面図、第2図はその 取付状態を示す斜視図、第3図は従来品を示す略

2……シヤシフレーム、4……荷台、5,14 . 15……クロスメンバー、11……バツテリケ ース、13……バツテリ、18……通孔、22… …ガイドピン。





